

決算説明会 質疑応答
(2024年12月期 第3四半期)

[登壇者]

取締役 専務執行役員 CFO

渡部 敏朗 (以下、渡部)

質問者① [Q]: 1点目の質問が、この第4クォーターというのですかね、今回のご計画を変えていませんので、差し引いた数での利益はどれくらい達成確度があるかを確認させていただければと思います。私の計算が正しければ、後は第4クォーターにかけて240億円程度足してしていく形になりますが、一方で、第1クォーター、第2クォーター、第3クォーターにかけて利益水準からすると急激に上がる形になるかと思えます。

そこについてのご計画の達成する確度と申しますか、こういったたてつけでいくのか、もう少し背景をご説明いただけますか。

渡部 [A]: おっしゃるとおり、今年間の業績予想自体は見直しをしておりません。実は、ここまでの3クォーターのいろいろな進捗状況をいいますと、社内の計画に対して利益ベースではかなり厳しい、達成率の悪い、低い状態で推移しているのも事実です。

それで、参考までに現状の3クォーターまでの9カ月の社内の計画に対する達成率をセグメントごとに概数で申し上げます。

メカトロニクスセグメントは、売上はほぼ計画のラインに乗っております。一方、営業利益については約半分の50%を切るラインで推移しているのが実情です。それから、インダストリアルマシナリーは、売上、営業利益ともほぼ計画どおりの線でいっております。ロジスティクス&コンストラクションは、売上が1割ほど計画に対して未達、利益についても5%程度未達の水準という状況です。

一方、エネルギー&ライフラインは、売上はほぼ計画ラインということと、営業利益は、現状の時点では計画に対して上回っているという進捗になっております。

それで現在、この12月に向けた第4クォーター、特に年度末の各セグメント各機種をまたぐいろいろな納期の確認、それから最後の受注の反映状況を来年度の計画策定に向けて精査しているところです。

そういう意味で、今回、ここまでの進捗からいうと、やや達成率という意味では厳しいところはあると思いますが、最後の年度末のいろいろな案件の精査を踏まえた上で、しかるべきタイミングで判断していきたい

と考えております。

今申し上げたとおり、メカトロニクスセグメント、それからロジスティクス&コンストラクションのセグメントにて厳しさが大きいとご理解いただけたらいいかと思えます。

質問者① [Q] : 詳細にありがとうございます。恐れ入りますが、確認したいところがございます。

結局、これは連結ベースで、この9カ月累計の社内計画に対する達成率でいうと、オンラインなのか、何パーセントを切るかという数字をいただきたいのと、エネルギー&ライフラインが利益として会社計画対比上振れてきているのは、船舶という理解でよろしいでしょうか。

渡部 [A] : そうですね。まず、全体でいうと、ここまでの9カ月の計画に対する達成率はだいたい9割、要は1割程度ですね、未達での推移になろうかと思えます。

エネルギー&ライフラインについては、船舶も好転していますが、その他タービン関係、それからその他の化工機関係等、複数の事業で少しずつ好転しています。それから、主力のエネルギープラントについても、ここまでは好転で推移しているところもあり、全般に少しよくなっている状況にあります。

質問者① [Q] : 10%ぐらい下振れているのは、全体のところ、売上、利益ともにということですか。

渡部 [A] : そうですね。そう理解していただければいいと思えます。

質問者① [Q] : もう一点目が、今回でいうロジスティクス&コンストラクションにおける油圧ショベルでご言及いただいた、外部環境の変化について、もう少し追加でご説明いただけますか。

例えば、外部環境が悪化しているという言及は、他の競合他社さんでもコメントが出てきていることと認識していますが、それに対して御社が今どう取り組もうとしているのかご言及いただければと思います。例えば、工場稼働率を下げていく必要性があつてとか、あとは違う販路のやり方をしていくなど、この辺に向けてどういった対策をすることで業績としては確保をまだできるのか、そんな辺りのご言及をいただくのと。

また、売上と受注のトレンドをみていくと、売上よりも受注高がロジスティクス&コンストラクションでいうと低くなってきている状況になると思えます。ですので、来年度を、ちょっと早いですが考えたときに、このセグメントでいうとちょっと減益になってしまうのではないかなという印象を持ったのですが、何かお考えがあればご言及いただければと思います。

渡部 [A] : ロジスティクス&コンストラクションのセグメントで、一番大きな影響は油圧ショベルの動

向になります。ここまでの受注の推移等、かなり前期比で比べると大きく減少ということで、少し説明に入れておりましたが、基本、北米、米国における需要の減、主としてレンタル関係の減少を背景にかなり在庫が高止まりしているという現実があります。

そういう意味で、まだ在庫調整が続いていることで、受注高の減少が生じているということです。それに対して、今どういうことになっているかということ、北米においては代理店における在庫に対しては、その販売を促進する、支援するための販促策等、そういった金利相当分の減免プログラムなど、そういったものをやっております。

まずは在庫を適正水準にすることを急いでいることと、一方、生産サイドでいいますと、北米向け、主として千葉工場での生産になっていますが、千葉工場の生産についても実は今期の生産計画はすでに見直して引き下げをしています。

そういう意味で、在庫をまず適正水準にして、来期以降正常な受注、売上、それから生産に早く持つていくことに今注力しているところとなります。

そういう意味で、来期の見通しについては現在いろいろ計画を策定中ではありますが、こういった調整局面がまだしばらく来期前半は続くであろうという見方もあります。ただ、後半からは回復していただくということで、それがどの程度、在庫調整との兼ね合いで当社のグループとしての売上、それから生産量の確保に繋がるかという、そこを現在精査しているところです。

質問者② [Q]：メカトロニクスの収益性に関してうかがいたいです。第2クォーターのときに利益率ががっと下がって、2Q、3カ月だと2億円弱、第3クォーターでも3億円弱と、あまり収益性が改善していないように感じます。

第4クォーター、来期に向けてこの収益性が数量改善に伴ってきちんと元の利益率、まずは6%程度まで戻っていけるのか。それとも、ちょっと構造的に競争激化も進んでいるし、価格転嫁も進んでいないのであれば、ハードルがあるのかなとか。そこら辺の課題やヒントがあれば教えていただきたいです。

渡部 [A]：メカトロニクスセグメントの収益性については、確かにおっしゃるとおり、2クォーター、1クォーター時点からさらに下がったということで、今後の動向、例えば価格改善など、いろいろなものを含めて改善方向にというお話しした記憶があります。

足元、どういうことになっているかといいますと、主力の中小型の変減速機は、実は受注、売上ベースでは改善方向に今向かっています。

今回、セグメント単位で受注高が前年比マイナスになっているのは、このセグメントには一部、半導体関連のコンポーネント系の機種が入っております。一部装置も入っていますが、そういった半導体関連で

の減少が勝っており、従来の変減速機機種では前期比プラスに転じているというのが実情です。

一方、ご指摘の収益性については、そういう意味で、まず量が回復過程にある中で、なかなか上がってこない理由として、直近2クォーター、3クォーター辺りが顕著ですが、欧州における電機制御関連事業の前期から続いている受注減、売上減の影響がかなり大きく出ています。

そういった要素を除くと、従来の国内を中心にした中型変減速機等は価格改善が少しずつ浸透して、それから若干量も戻っているということで、少し収益性は改善しつつある状況にあります。

そういう意味で、来期に向けてということでは、変速機、特にギアのビジネス中心に改善傾向は続くとは考えていますが、キーポイントは欧州の景気の動向、それから実は今回、欧州経済低迷に伴ってかなり欧州の関係会社の業績が下振れしたわけです。本質的にそういった下振れに強い体質にするという構造改革も今後課題になってくるかなと認識しています。

質問者② [Q]: もう一点、半導体関係です。第3クォーター累計で売上高700億円、通期だとたしか前回のクォーターの時に990億から1,020億に上方修正されていました。ですので、第3クォーターまでの進捗を考えると、第4クォーターも同じような240億ぐらいの売上高が出て、940とか950億ぐらいの通期の着地で終わるリスクも出てきているのかなと思います。

こちら辺の半導体関係の回復度合いや、お客さんによつての需要動向の違いなど、もし前回のクォーターからの変化点があれば教えていただきたいです。

渡部 [A]: 今回、11ページでお示ししている半導体関連の年度の予想自体は、前回から据え置いているという意味での数字となっています。実際、ここまでの進捗からすると、ややしんどくなっているというのが実情ではあります。

ただ、装置関係なんかの年度をまたいだ納期の調整など、いろいろなものを精査中で、そういう意味で、若干まだ確定していない部分もありますので、そのままに置いているということです。

ただ、状況をいいますと、大きな装置関係については受注残等の納入が進んでいくこともあり、そんなに大きな変化は売上ベースではないであろうと思っています。ですが、コンポーネント、それから特殊な機器類については受注の入りがなかなか回復していないこともあり、売上の減少傾向はあるということです。

そういう意味で、先ほど言われたような予想のたて方もある意味、合理的な範囲かなという気はします。ただ、そういったものも含めて現在精査中という状況です。

質問者③ [Q]: 一つだけです。明らかに進捗率が厳しくて、ご説明もそのトーンでお話しいただいてい

るのですが、それでもこのタイミングで下方修正しなかったのは、会社として何かアクションが次、下方修正なりしてくるときに出す予定でいるのか。それとも、ただ単に、何か踏ん切りがつかないで今回は修正しませんでしたというだけの話なのか。その辺りはいかがですか。

別に嫌味をいうつもりはないのですが、後手後手のような気がすごくして、全てにおいてちょっと厳しいですみたいなトーンでずっと20分きて、だったらすればいいのにとちょっと思ったので、その辺り何かどうでしょう。

渡部 [A]: そこから見るとそういう向きに、見方になるかなという気もしないでもないですが、現状、先ほどから申し上げているように、最後の年度末に向けてのいろいろな納期の確認や、来期に計画されている中での今期の見込みの精査等を行っている途中です。現時点では、まだある確度をもって修正していく段階にないという判断にはなっています。

それから、足元の厳しさの認識に伴って、それぞれの下振れしている事業に対する対策など、そういったものは適宜検討、それからできたものから実行をしつつあるということです。もう少し来期計画がまとまった段階で、今期の予測の精度をもったものを見極めて判断したいなどは考えております。

質問者④ [Q]: インダストリアルマシナリーの中の射出成形機のところです。渡部さんの話で、中国の射出成形機が、IT 関連が底打った感じで、ヨーロッパ向けは依然として弱い感じを受けました。業界受注台数の9月を見て、えらく9月が8月や7月に比べるとだいぶ下がってきて、新聞の記事によると、結構中国景気鈍化の影響があるのではないかなというところですか。

御社が9月とか、今は10月末というところで、10月、9月の中国の射出成形機の動向が急に悪くなったような要素があるのか教えていただけますか。

渡部 [A]: ここ数カ月、どちらかというと、日本製の統計上の台数自体は回復基調にあったというのが実際は事実です。ただ、その中でも、われわれの見立てとしては、その需要の中にはどうしても大口の動向がかなり影響していると見ておりました。

ですから、そういったものを除いたところの本当のベースとなる需要の回復が確かなものかというのは、ややわれわれもまだ注意が必要だなどは思っております。

現在も同じような見立てをしていて、直近の状況をいいますと、9月の状況を見ていますと、特定のメーカーの大口分の影響が消えたところで、また需要が下がっているという速報もあります。安定的に本当に回復しているかという、やや力強さ自体はないかなとは思っています。

ただ、全般的に少し過去半年ほど前より(以降、音質不良で参加者に音声が届かず)。

質問者④ [Q]: 途中で渡部さんのコメントが切れちゃったのですが、もう一回教えてもらえますか。足元の中国の状況はどうか。よくなっているのか、悪くなっているのか、まだはっきりいって判断しかなるのか。足元の中国の射出成形機の状況です。

渡部 [A]: 失礼しました。ここ数カ月は、実は回復基調にあったのは事実ですが、ただ需要が増加していた背景というのが、特定の大口に依存していた傾向もあり、そういう意味では、ベースとなる需要が全体に回復というのは、なかなかまだ力強さが足りないなというのがわれわれの認識です。ただ、改善傾向にあるという予測は持っているところです。

先ほど言いかけたのは、その後、むしろ日本、アジアよりも欧州の低迷というか、冷え込みがかなり厳しいということで、今回の決算上も欧州エリアでの悪化が重しになっているところが実情です。

以上